

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

「高校生に夢を」…崑崙山脈6770m未踏峰の偵察

すでに何回か書いてきているが、7月25日から8月9日まで、高遠高校の久根さんと二人で崑崙山脈の6770mの未踏峰の偵察に出かける。この遠征について、信高山岳会では次のような基本コンセプトをもっている。曰く「『高校生に夢を』という信濃高等学校教職員山岳会（以下信高山岳会）の原点に立って次代をになう若者の育成をおこないたい。これまで信高山岳会は、長野県山岳協会に加盟しその傘下で、日中合同登山技術研修会や長野県高校生訪中登山交流会、アリュージョン登山自然調査隊、カシタシ主峰（セリッククラムムスターグ）登山隊などイベントを通して年代のつながりをつくってきた。その歴史の上に立って、会の創立30周年ならびに長野県山岳協会50周年の節目の年にあたる2011年、中国新疆維吾爾自治区での登山とトレッキングを実施したい。このイベントを通して、高校生と次代を担う若い教職員へ夢をつなげ、学校に夢をもつ素晴らしさを広げたい。」と。これは、昨年新疆で騒乱が起こる前に決定したコンセプトだ。現実問題として高校生を連れて行くトレッキングについては現状ではかなり難しい部分も予測されるが、まずは我々教師が未踏峰への登山隊を組織したい。そして「夢」を追う姿を通して、高校生とともに「夢」をもつことの素晴らしさを考えたいということで、一年越しの偵察となったわけだ。

	月日	曜	行 動	備考・宿泊場所等
1	7月25日	日	中部国際空港～大連（入国手続）經由ウルムチ入り CZ620 名古屋発 12:15 大連着 13:45 CZ6954 大連発 18:00 ウルムチ着 23:55	CZ（中国南方航空）便乗り継ぎ・ 【城市大酒店】
2	7月26日	月	ウルムチ滞在	情報収集 【城市大酒店】
3	7月27日	火	ウルムチからカシュガル（CZ6803/08:50→10:30）	【色満賓館】
4	7月28日	水	カシュガル～カルギリク	情報収集・買出し【乔戈壁登山賓館】
5	7月29日	木	カルギリク～マザー（3700m）	【麻札招待所】
6	7月30日	金	マザー～大紅柳灘～BC予定地（5000m）	【BCテント】
7	7月31日	土	偵察 5100m氷河舌端偵察（5100m）	【前進Cテント】
8	8月1日	日	偵察 試登・観察（5100m）	【前進Cテント】
9	8月2日	月	偵察 試登・観察（5100m）	【前進Cテント】
10	8月3日	火	偵察	【BCテント】
11	8月4日	水	BC予定地～アクサイチン湖往復～カルギリク	高校生トレック下見【乔戈壁登山賓館】
12	8月5日	木	カルギリク～ホータン	高校生トレック下見【和田賓館】
13	8月6日	金	ホータン～砂漠公路～クチャ	高校生トレック下見【庫車賓館】
14	8月7日	土	クチャ～ウルムチ CZ6866 クチャ発 18:15 ウルムチ着19:40	高校生トレック下見【城市大酒店】
15	8月8日	日	ウルムチ～大連 CZ6953 ウルムチ発 11:50 大連着 17:00	CZ（中国南方航空）便 【大連市内・・・CZ手配】
16	8月9日	月	大連（出国手続）～中部国際空港 CZ619 大連発 08:05 名古屋着 11:15	CZ（中国南方航空）便乗り継ぎ

偵察隊の日程は、上に示した通りである。僕が新疆ウイグル自治区に行くのはこれが4回目。今回訪れるのは、カシュガル（喀什）とホータン（和田）の中間にあるカルギリク（中国名：葉〔叶〕城）から新蔵公路を500kmほど南東に入った地域で、位置的にはホータンの南南西およそ130kmにあたる。2001年に登った中部崑崙の「セリッククラムムスターグ（カシタシ主峰）」は北面からのアプローチだったが、今度は

西部崑崙、南面からのアプローチとなる。カルギリクからは途中カラコルムベースとの分岐点にあたるマザー（麻札：3700m）という地点で1泊の予定。その先は道路管理のために置かれた解放軍関連施設の他は、人が住んでいない地域だとのことである。BCは5000mの予定だが、マザーの手前とマザーの先に5000mの峠がある。その点でBCまでの順応も一つのキーとなる。マザーの標高が富士山とほぼ同じということでもあり、日本でも事前準備が可能である。そう考えて先週富士山に出かけたわけだ。

ところで、崑崙山脈を含む新疆地区の登山史を繙いてみると教員の登山隊が多いことに改めて気づく。なぜ崑崙なのか？その理由の第1は崑崙山脈はモンスーンの影響を受けないことから、夏休みを使える我々教員にとっては、行きやすい山域であること。そして第2は魅力的な6000m級の未踏峰がまだあることが挙げられる。

1998年のことだ。僕はたまたまその前年から全国高体連の常任委員としてインターハイの審査員を仰せつかっていた。98年のインターハイは高知で行なわれたが、審査員として一緒にB隊審査を務めたのが、山形県の今野一也先生、香川県の川井秀哉先生、さらに副審査員長をされていたのが栃木県の石澤好文先生であった。何かの拍子に僕が「崑崙への遠征を考えている」ことを口にしたのだが、そこで話は一気に盛り上がった。というのもたまたまこの3人の先生方はいずれも崑崙未踏峰へ登った経験をお持ちであったのだ。すなわち今野さんは95年にギシクターク（6488m）、川井さんは94年に天山のカシカール（6347m）、96年に崑崙のハーンヤイリク（6744m）、石澤さんは90年に慕士山（6638m）の初登頂者であった。僕にとって自分で組み立てる本格的な海外遠征は、初めての経験。その遠征を企画する段階でのこれら先達の経験譚はなんとも心強かった。インターハイ後、三人の先生方からは早速報告書を送ってもらい、おぼろげだった「新疆」や「崑崙」が一気に身近なものとなった。そして計画は少しずつ進んでいった。その後も貴重な現地情報など多くの示唆をいただきながら99年に偵察、2000年には失敗という経験もあったが、01年には未踏峰の山頂に立つことができた。偶然とは言え、今でもこのときの出会いは僕にとって運命的だったという思いがある。かつては群馬県、静岡県、滋賀県などでもインドヒマラヤやパミール、新疆などで高体連の先生方の遠征が組織され、長野県、島根県、新潟県でも高体連の有志が高校生を中国の山へ連れて行ったことが毎年のように話題になったものだが……。今、高校現場ではこのような熱い盛り上がりはあまり耳にしない。しかし、そんな今だからこそ、高校生に「夢」を語りたい。一年お預けを余儀なくされた「偵察」に、多くの人から励ましのことばをもらった。来年の登山を成功させるため、何でも見て来よう。

編集子のひとごと

夏休みを前に、池工山岳部では、夏山準備山行という名目で7月17、18日常念・蝶縦走を計画した。早朝三股を出発。ところが生徒にちょっとしたトラブルがあって、前常念の2200m地点まで登ったところで引き返さざるを得なくなった。「まあ、山は逃げないし。」と、仕方なく生徒をサポートしながら下ったのだが、その下りで今度は私が不覚。不用意に濡れた石の上に置いた足が滑り大転倒。木の根でしこたま胸を打った。で、大事をとって今日医者へ行ったら「限りなく骨折が疑われる打撲」との診断。痛みがある間は重いものをもたないようにと言われてしまった。痛みはだいぶ薄れてはきたので、偵察にはいけそうだが、一歩間違えば迷惑をかけるところだった。（大西 記）